

下原議員（草莽の会）

平成 29 年 12 月 12 日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) 高等学校と大学の接続について

国においては、知識重視の人材育成から、知識を活用して新たな価値を生み出す力の育成にシフトしていく観点から、高大接続改革の検討が進められている。

こうした国の動向を踏まえ、本県では、高校と大学の接続に関し、どのような取組をしているのか、また、中山間地域対策として、県立広島大学の庄原キャンパスと県立高等学校の間で、どのような連携がされているのか、併せて教育長に伺う。

(答)

国におきましては、高大接続改革における高等学校教育改革の取組として次期高等学校学習指導要領の検討が進められており、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に必要な学びの質や深まりを重視し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的な学習等の充実が求められております。

本県におきましては、生徒が探究的な質の高い大学の教育・研究に触れることで学問への興味・関心を高めるとともに、主体的に進路を選択することを主なねらいとして高大連携事業を実施しており、ここ 10 年間で毎年 1000 人を超える高校生が、県内の国公私立大学の公開講座等の授業を受けております。

また、平成 31 年度から、庄原格致高校の「医療・教職コース」及び吉田高校の「探究科」を新たに設置することとしており、現在、その教育内容等の検討に当たりまして、県立広島大学や広島大学と連携しているところでございます。

県立広島大学庄原キャンパスとの連携につきましては、庄原格致高校の生徒が生命環境学部の模擬授業に参加をしたり、庄原実業高校の生徒が、同大学の研究施設を活用し、食品の成分分析等を大学生とともに行うなど、実践的な実習に参加したりしております。

教育委員会といたしましては、生徒の主体的な進路選択や学習意欲の向上・質の高い教育機会の享受となるよう、高等学校と大学の連携を一層深めてまいりたいと考えております。